

# 高大連携キャリア教育プログラム・高大連携教育フォーラム

## <事業概要>

高大連携事業は、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合会、京都商工会議所及び当財団の連携によって「京都高大連携研究協議会」を組織し、2003年度から取り組んでいる。

現在、国の「高大接続システム改革」の展開がなされていることから、その動向を十分に踏まえながら、各種事業の展開を検討することとする。

## <主な活動項目>

- ◆ 高大連携教育フォーラム
- ◆ 高大連携フューチャーセッション → 高大社連携フューチャーセッション（2018年度名称変更）

### ※DI (Diffusion Index)値とは

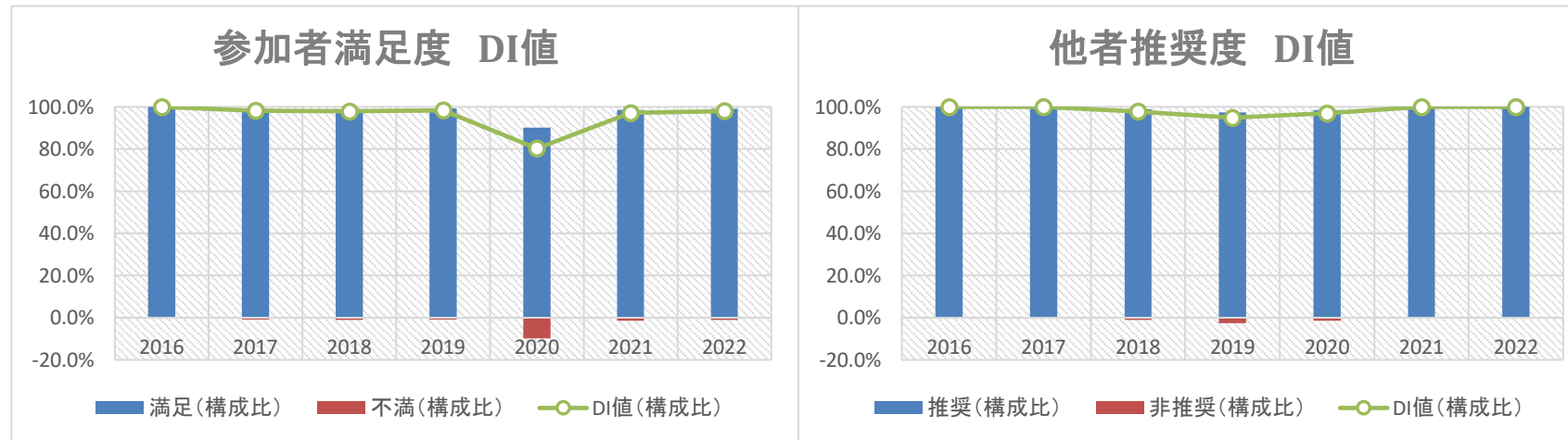
「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加(プラス)／減少(マイナス)、サーベイデータ(アンケートなど)であれば回答が良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>

## ◆ 高大連携教育フォーラム

### <事業概要>

高校・大学間の連携・接続に関する国内動向の情報共有や、京都における取り組みの情報発信を目的として開催しています。



### <参加者の声>

○他県での取り組みや諸先生方の研究などについて知ることができ、改めて日々の教育への取り組みについて考える機会をいただきました。

○今回のフォーラムをとおして高大連携の成果と課題、これから目指すべき姿を少し明確にすることができた。

○中教審の答申や「探究」で目指そうとしている理想、あるいは「キャリア」というものについて知ることができた一方で、そこから生徒一人ひとりを学校全体で指導していく難しさの解決にはなっていない。

○全体として教育行政と現場での取り組みとの「行き違い」や将来の可能性など、多様な論点を見出すことができた。

○今回の討議にあった「大学側にもメリットのある高大連携実践にしていくために、どのような視点・方法があるか」については、ぜひ様々な立場からのお話を伺ってみたい。

### 参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
満足(名)	101	110	189	120	64	68	100
不満(名)	0	1	2	1	7	1	1
満足(構成比)	100.0%	99.1%	99.0%	99.2%	90.1%	98.6%	99.0%
不満(構成比)	0.0%	-0.9%	-1.0%	-0.8%	-9.9%	-1.4%	-1.0%
DI値(構成比)	100.0%	98.2%	97.9%	98.3%	80.3%	97.1%	98.0%
参加者数(名)	153	210	254	223	227	144	156

### 他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
推奨(名)	90	118	177	114	65	70	94
非推奨(名)	0	0	2	3	1	0	0
推奨(構成比)	100.0%	100.0%	98.9%	97.4%	98.5%	100.0%	100.0%
非推奨(構成比)	0.0%	0.0%	-1.1%	-2.6%	-1.5%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	97.8%	94.9%	97.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	153	210	254	223	227	144	156

### ＜参加者の声を受けて改善を図った点＞

○2021年度に引き続き、中央教育審議会の関係分科会及びWGにおける「高大接続改革」の議論を踏まえ、高等学校と大学の双方の視点をすり合わせながらテーマ及び企画内容を検討した。

○2022年度は京都高大連携研究協議会発足20年の記念事業として行うため、新型コロナウイルス感染症の社会情勢を鑑みつつ、対面とオンラインのハイブリッド開催とした。

### 【総括】

2022年度、第20回目となる今回は本協議会発足20年を記念して、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分にとったうえで、対面とZoomを用いたオンラインのハイブリッドで開催し、全国から155名の方々に参加いただいた。

第1部では、①荒瀬克己氏の記念講演、②溝上慎一氏の記念講演を設けた。終了後の参加者アンケートには、好意的な感想が寄せられた。

一方、各教育委員会等からの事例報告と両氏を交えたパネルディスカッションでは、「これからの教育活動に向けて、ヒントになるお話がたくさんあった」といった意見が寄せられ、「満足」50.5%、「やや満足」26.7%、「どちらでもない」5.0%、「やや不満」2.0%と高い満足度の結果となった。

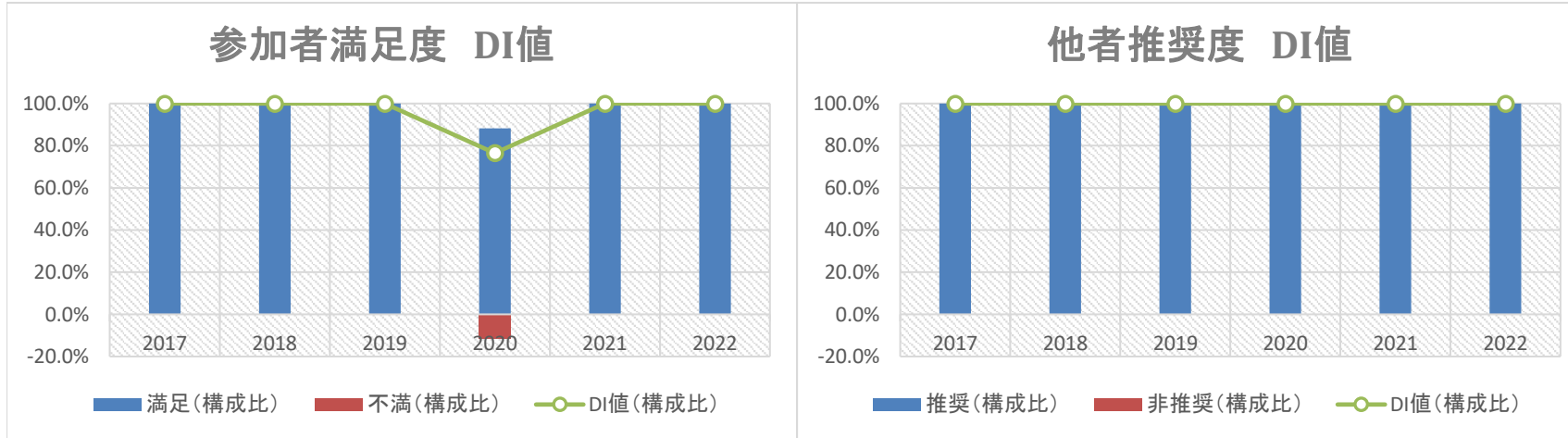
第2部の分科会について、終了後の参加者アンケートでの各分科会の満足度を問う設問では、分科会によりばらつきはあるものの、いずれも「満足」「やや満足」の回答が多数を占めた。

2023年度は、本フォーラムのターゲット層である高等学校・大学関係者の参加者確保と、特に京都府内の大学教職員の参加者数増加につながる工夫・検討が必要である。

## ◆高大社連携フューチャーセッション

### <事業概要>

高校生・大学生・社会人といった世代、学校間を越えて、テーマについて未来志向で対話することを通して、高校生・大学生のキャリア発達を促すことを目的としています。



### <参加者の声>

- 同世代の人と共通の話題について話し合うことで、様々な考え方、ものの見方を知ることができた。
- ヤングケアラー当事者の方のお話を直接聞くことができたとともに、それに基づいて現実的な視点から他大学の学生や高校生と対話することで若者としての結論を出すことができたから。
- 企画から運営まで、フューチャーセッションのすべてが経験となった。様々な意見を聞いて、幅広い視点と理解で社会問題について考えることができたから。
- テーマに関する提案のスケールを揃えるように指示してほしいです。(個人でできることなのか、社会で変容させるべき点なのか)

### <参加者の声を受けて改善を図った点>

- 実施日の検討にあたっては、高校側行事等の状況把握に努めた。
- 2021年度に引き続き、京都府内の高校生・大学生を対象に実行委員を募り、実行委員が企画段階から参画し、当日の企画検討、広報及び当日の運営などを担う形式を採った。今後もこの形式を採用する場合は、成果、課題を踏まえて、より充実した企画となるよう努める。
- 2021年度はハイブリッド開催であり、2022年度もハイブリッド開催を予定していたが、オンライン参加者が少なく、結果として対面開催とした。

### 【総括】

2020年度より引き続いて、京都府内の高校生・大学生から形成された実行委員会が主体となって、企画全般やチラシの作成、広報などを担い、開催当日は会場設営から司会進行、グループワーク時のファシリテーターなど運営に携わった。

終了後のアンケート結果では、「普段考えることのない話題について様々な年代の方と意見交換をすることができて、とても有意義な時間だった」などの感想が寄せられており、参加者は様々な学びや気づきを得ることができたと感じられる。

また、実行委員からのアンケート結果では、「一からイベントを企画する難しさや、それに対して頑張って取り組み良いものをつくる体験ができた」などの感想があった。

なお、2023年度も実行委員会形式とする場合、今回の成果と課題を踏まえ、高校生・大学生の活動範囲、時期等に配慮しつつ、より充実した対話・活動の場となるよう工夫を重ねる。

### 参加者満足度

	2017	2018	2019	2020	2021	2022
満足(名)	44	39	78	15	26	23
不満(名)	0	0	0	2	0	0
満足(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	88.2%	100.0%	100.0%
不満(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%	-11.8%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	76.5%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	45	39	80	37	26	30

### 他者推奨度

	2017	2018	2019	2020	2021	2022
推奨(名)	44	37	72	13	25	22
非推奨(名)	0	0	0	0	0	0
推奨(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
非推奨(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	45	39	80	37	26	30